

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko 国際文化専攻修了 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

この号の内容

1 ベネチア 来年から試験的に入場料徴収へ オーバーツーリズム

2 EU 支部だより

・約 700 円

・日帰り客



・混雑の問題

・マナーの問題

・文化財・遺跡などの損傷問題

・違法民泊の増加問題

・景観の悪化問題



イタリア・ベネチア 来年から試験的に入場料徴収へ オーバーツーリズム

2023.09.13AFP

イタリア・ベネチア市議会は 12 日「オーバーツーリズム」問題が指摘される同市の歴史地区を訪れる日帰り客を対象に来春から5ユーロ(約700円)の入場料を試験的に徴収する計画を賛成多数で承認した。国連教育科学文化機関(UNESCOユネスコ)は7月、世界遺産に登録されているベネチアを危機遺産に加えるよう勧告した。承認を受け、ルイジ・ブルニャーロ市長は「第一歩だ」と評価した。採決に先立ち、議場で数十人と怒鳴り合いとなり、ブルニャーロ氏が反対派を「暴力的なファシスト」と非難する一幕もあった。

EU 支部だより -オーバーツーリズム-

オーバーツーリズムとは、観光地に過度な観光客が押し寄せることで、地域住民の生活及び自然環境そして景観に対して負の影響を与える状況のことです。日本では「観光公害」とあらわすこともあります。その主要な問題は以下のとおりです。

- ① **混雑の問題**: 電車やバスといった交通機関や街中のトイレや飲食店などの混雑、地域住民の暮らしに負担をかける事例もあります。
- ② **マナーの問題**: 観光客によるポイ捨てされるゴミや深夜の大騒ぎ、立ち入り禁止地区での記念撮影、飲食禁止エリアでの立ち食いなども大きな問題となっています。
- ③ **文化財・遺跡などの損傷問題**: 観光客により世界的な文化財・遺跡などに傷がつけられるという事態も多数発生しています。文化財・遺跡自体の価値の下落につながることもあります。
- ④ **違法民泊の増加問題**: 営業許可を取っていない違法民泊は、近隣住民とのトラブルや犯罪につながる可能性もあります。
- ⑤ **景観の悪化問題**: 美しい街並みや自然が魅力の観光地もひとであふれかえっていたり、観光客向けの看板の乱立や景観に合わないホテル等の施設が設立されていたり等、景観悪化につながっています。

では、海外のオーバーツーリズムの状況のみをみましょう。

イタリア: 特に映画の舞台となったベネチアなどの街では、その映画のシーンを再現したがるような観光客も世界中から多数訪れます。そこで政府は警官による見回りや声かけなどを中心に観光客のマナー改善を推し進めています。禁止行為を分かり易く提示するほか場合によっては罰金を徴収することもあり厳しく取り締まっています。

スペイン: 1992年のオリンピックをきっかけに世界からの観光客が増えたバルセロナでは、住環境の悪化にともない「観光反対デモ」等多数の反対デモが行われるようになりました。事態を重く見た政府は2017年に「2020年に向けた観光都市計画」を発表。新たな商業施設等の開設禁止や観光客向けの新規ホテル建設禁止などの対策を実施しています。

オランダ: 旅行者や旅行業界が優先されていると言われていたオランダでは「レジデンス・ファースト」として住民を優先する方針を決定。新規ホテルの建設を規制するほか観光税の導入といった取り組みが行われています。

次に、日本の状況です。

京都: 京都観光協会では「オーバーツーリズム対策事業」を開始。混雑を緩和し地域住民の暮らしを守るため観光の分散やマナーの向上などに取り組んでいます。

富士山: 「富士山保全協力金」を導入するなど対策をしていますが、実際に山にはゴミが捨てられたり自然環境が破壊されたりといった問題が起きており対策が急がれています。

沖縄: 宿泊施設不足にともない不動産業界は宿泊地を確保するため、住居用の土地や建物を宿泊施設に転換。それにより賃料の値上げや住居の不足がおこり地域住民の暮らしを圧迫する結果となっています。

素敵な体験ができる旅行ですが、地元住民や環境のことを考えないと観光客=あなたや私自身が「公害の原因」となってしまう可能性も。旅行や観光のあり方について一人ひとりが再度考えていくことが必要なのではないでしょうか(松原)